

地域医療連携だより

新任ドクターのご紹介

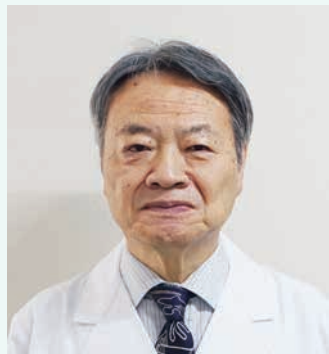
康生会武田病院では、新たに9人のドクターをお迎えしました。日ごろお世話になっているかかりつけ医の先生方との連携をより一層深め、地域の医療に貢献できるよう努力してまいります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

武田病院に就任して

この度、臨床検査・病理部長に就任いたしました。私は奈良県立医科大学卒業後に第二病理学教室（つづらよしひこ 螺良義彦教授）へ入局し、Antoni van Leeuwenhoekhuis(オランダ国立がん研究所)にオランダ政府奨学生として留学するなど、乳がんウイルスの発がん研究をテーマに、二十数年間、極めて多忙な研究生生活を送ってまいりました。

一方、すがのはるお (財)がん研究所の菅野晴夫所長の知遇を得て、学生時代から病理診断学の御指導を受けましたが、中でも、乳腺病理の第一人者のさかもとごい 坂元吾偉博士には、長年お世話になった次第です。

この4月からは武田病院の一員として、「Bridge The Gaps」の精神で、地域医療に貢献できるよう努力いたします。



いまい しゅんすけ

今井 俊介 部長

専門：臨床検査・病理診断

卒業：奈良県立医科大学 昭和48年卒

趣味：囲碁

専門医・指導医：日本臨床細胞学会・細胞診指導医、日本病理学会・認定病理医、日本医師会・認定産業医、日本臨床検査医学会・臨床検査管理医、厚生労働省・死体解剖資格認定

理念

- ・思いやりの心
- ・地域社会の信頼
- ・職員相互の信頼

基本方針

- ・ブリッジ・ザ・ギャップス
- ・患者さんの権利尊重
- ・信頼の医療に向けて
- ・地球にやさしい環境づくり

環境方針

- ・省資源・省エネルギーの推進
- ・廃棄物の3R
(減らす、再使用、再資源化)の推進
- ・安全性・快適性の推進
- ・環境広報活動の推進

新たに着任したドクター

いしがみ しゅんいち
石上 俊一 部長



専門：消化器外科
卒業：日本医科大学 昭和60年卒
趣味：釣り、家庭菜園、旅行、サイクリング
専門医・指導医：
日本外科学会 認定医・専門医・指導医、日本消化器外科学会 認定医・専門医・指導医、消化器がん外科治療認定医、がん治療認定医機構 認定医、日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医師、麻酔科標榜医

当科では虫垂炎や鼠径ヘルニア、胆石症、結腸・直腸がん以外に、胃がんの腹腔鏡下手術を導入し、『がんの根治性を損なわず合併症を起こさない手術』を心がけております。何より患者さんのご希望や社会的背景に配慮した治療選択を第一に、近隣の先生方の力をお借りしながら、最善の医療が提供できるようにと考えております。よろしくお願い致します。

たにかわ たかひさ
谷川 隆久 特任部長



専門：内分泌・糖尿病内科
卒業：産業医科大学 平成8年卒
趣味：読書、散歩
専門医・指導医：
日本糖尿病学会 糖尿病専門医・研修指導医
日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医

前職では主に高齢者の糖尿病に携わってきました。糖尿病は生活習慣病であるがゆえに『患者さんの生活史』とも言えます。そこでは身体的要素、心理・精神的要素、社会的要素の全てが関与しているため、療養には個別性と多方面からのアプローチが求められます。こうしたことから、医師のみならず、多職種・地域と連携していきたいと存じます。

むらた とおる
村田 徹 副部長



専門：消化器外科
卒業：関西医科大学 平成4年卒
趣味：読書
専門医・指導医：
日本外科学会 外科専門医、
日本消化器外科学 認定医・消化器がん外科治療認定医

消化器外科疾患を中心に診療させていただきます。他職種と連携をとりながら、患者さん、そのご家族と相談の上、適切な診断治療を行えるよう努めます。これまでの経験を生かし、武田病院の一員として、診療に取り組む所存ですのでよろしくお願い致します。

ながい やすのり
永井 靖識 医師



専門：脳卒中センター
卒業：島根医科大学 平成21年卒
趣味：読書、サッカー観戦
専門医・指導医：
日本脳神経外科学会 専門医、
日本脳神経血管内治療学会 専門医

京都大学脳神経外科の医局に在籍した後、各地で臨床経験を積んで、専門医取得後は京都大学大学院在籍です。脳神経外科の中でも特にてんかんや高次脳機能を研究対象とし、「脳は主体的にみたいものをみている」ということが分かってきました。多様な視点や考え方で治療に取り組み、これまで学んだことを生かして貢献できるよう頑張りたいと思います。御指導・御鞭撻の程よろしくお願い致します。

第3回 「合同リハビリテーションカンファレンス」 康生会武田病院・京都大原記念病院グループ



康生会武田病院と京都大原記念病院グループは1月24日、「第3回合同リハビリテーションカンファレンス」を康生会武田病院の外来棟で開催。当日は両院の医師、看護師、セラピストら多くの専門職が意見交換を行いました。

メインとなる演題では、当院脳卒中センター医師と京都大原記念病院脳神経外科の高道美智子医師、同院の久保田一誠理学療法士、御所南リハビリテーションクリニックの筒井友美理学療法士が登壇。両院が連携し対応した40代・女性の小脳出血事例について、ステージごとの詳細を報告しました。

当院脳卒中センターの滝和郎センター長、定政信猛部長は合同カンファレンスの意義を強調し、さらに連携を深めていくことを語りました。

ターをご紹介します

まのしょう
眞野 翔 専攻医



専門：心臓血管外科
卒業：大阪医科大学 平成 28 年卒
趣味：映画鑑賞・読書・格闘技

本年より心臓血管外科に後期研修医として配属されました眞野です。心臓血管外科医に憧れ幾星霜。今年で医師 5 年目となります。たったの半年間ですが、持ち前の体力でバリバリ働きたいと考えております。またなるべく多職種・他科の先生方とコミュニケーションを取りながら診療を進めていきたいです。ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

つじ ひろふみ
辻 博文 医師



専門：脳卒中センター
卒業：京都大学 平成 25 年卒
趣味：欧州サッカー観戦、ワイン

今年度、脳神経外科専門医となる学年ですので、脳神経外科全般に積極的に関わっていく所存です。Subspeciality（専門医のなかでのさらなる専門領域）としては血管内治療を目指しております。短期間の勤務となりますが、患者さん・ドクター・コメディカルの皆さんにも信頼されるよう全身全霊で取り組みたいと思います。よろしくお願い致します。

さだもと はるこ
定本 悠子



初期臨床研修医
卒業：熊本大学 令和 2 年卒
趣味：読書

私は京都市出身で、同志社中学校・高等学校を経て、2020 年 3 月に熊本大学医学部医学科を卒業しました。好物は蕎麦で、現在蕎麦打ちを練習中です。数年前から梅干しを作っており、今年からはミョウガを育てようと目論んでいます。将来は思いやりのある親しみやすい医師になりたいです。ご指導のほどよろしくお願い致します。

初期臨床研修医のご紹介

ながおか さゆ
長岡 紗由



初期臨床研修医
卒業：熊本大学 令和 2 年卒
趣味：映画鑑賞

私は京都女子高等学校出身で、本院の事も昔からよく知っており、『地元に戻ってきた』との感慨を覚えます。絵画が好きで、高校時代は美術部に所属し、美術館にもよく足を運びました。大学では 6 年間、空手道部に所属しておりました。将来はまだはっきりとは決めておりませんが、研修で様々な患者さんにしっかりと対応できる基盤を身に付けたいと思います。よろしくお願い致します。

初期臨床研修医のご紹介

地域医療連携 CAD・PAD 学術講演会 2020 康生会武田病院・下京西部医師会ほか



武田病院グループと地域の開業医の先生とで循環器領域の最新知見について研修する「地域医療連携 CAD・PAD 学術講演会 2020」（康生会武田病院、下京西部医師会ほか共催）が 2 月 1 日、TKP 京都駅前カンファレンスセンターで開催されました。

当日は、当院循環器センターの木下法之部長、同不整脈治療センターの垣田謙センター長、循環器センターの中村玲雄副部長が登壇し、CADの最新の話、アブレーションニューデバイス、下肢静脈瘤に対する高周波焼灼術をテーマにそれぞれ解説しました。

座長を務められた関医院内科・循環器科の関透院長、循環器内科・内科 まつばらクリニックの松原欣也院長は、軽妙なトークで会場を巻き込みながら鋭い指摘を飛ばし、意見交換を盛り上げました。



スペシャリストナース活動報告



朝の救急スタッフミーティングを開始しました！

救急看護認定看護師 山田 愛

当院は、高度急性期病院として「断らない救急」を目標に年間 6,000 件の搬送に対応しています。

状況変化の激しい救急医療の現場では、瞬時の適切な対応が求められます。私たちは、より高度で適切な医療が提供できる事を目的に、救急スタッフミーティングを再構築しました。



毎朝、救急担当医師、看護師、医事職員、患者サポートセンター担当者が集まり、院内の情報共有と搬入患者の症例検討を進めています。このような取り組みにより、医療チームのコミュニケーションが強化されスムーズな医療が提供できるようになってきました。

今後もエビデンスに基づいた高度な医療と共に患者さんのニーズに応えながら、地域医療に貢献できるよう成長を続けてまいります。

患者さんに寄り添ったサポートを

がん化学療法看護認定看護師 久世 有紀子



がん治療の進歩は目覚ましいものがあります。日々、新たな治療法が研究・開発され、さらには罹患された方の生活の質を高める支

援方法も進化しています。自分に合った治療法を選択し、自分らしく生きていくことも可能となっているのです。

その一方で、「具合が悪くなったときやターミナル期をどう過ごすのか」を決めるのは簡単なことではありません。

私たち病棟看護師は、患者サポートセンターと密な連携をとりながら、がん罹患された患者さんが、病気や治療の適切な情報を得られ、ご納得された上で日々の生活が送れるよう支援を続けています。

患者さんが迷ったり、悩んだりされているときは、私たちに声をかけてください。周囲には「支えてくれる人」がたくさんいるのです。上手に暮らしていくための情報提供など、幅広いご支援を行ってまいります。

AI問診 UBie

令和 2 年 1 月からスタート!!!



タブレット端末で問診を行う「AI問診」システムを導入しました。操作は画面をタッチするだけなので、お年寄りの方にも簡単です。さらに結果は、電子カルテのパソコンへ反映されるので、患者さんの待ち時間短縮にも繋がります。

受付時間

月曜日～金曜日 8:30～19:00 土曜日 8:30～17:00

※日曜日・祝日・祭日・年末年始はお休みさせていただいております。

患者
サポート
センター

医療機関専用

TEL(075)361-1352 (直通)

FAX(075)361-1337 (直通)

※患者サポートセンター受付時間外につきましては医事部（医療事務）にて対応させていただいております

TEL (075)361-1351 (代表) FAX (075) 361-1268 (医事部専用)